

拝復

度重なる台風の大雨も日本列島より去り、ようやく秋の空になりました。

バックスが他界された後も、あづみさんには超多忙な日々とお察し申し上げます。

神戸高校から岩稜会の後半に至るまで、バックスには大変お世話になりました。

会の諸先輩の四峰、明神岩壁登攀などの時代は、下界での手伝いに走りました。ナイロンザイル事件から実験、試料の作成などに携わり、後半には「穂高の岩場」資料撮りに石原國利、澤田さんほかと北穂のルート撮影、出版の手伝いで明け暮れでした。

卒業後は東京に就職しすっかり山とは疎遠になり、バックスのお手伝い、合宿には参加出来なくなりました。

私の家族は昭和 19 年に大阪から疎開し、その後十日市町に根を張り現在に至っています。

時間があれば母“ナツ”は、おばあさまの“志ずさま”を尋ね、ご馳走になりながら、いろいろとお話をさせていたようです。内緒の話ですが、「繁雄さんはよくお金を使ってくれます」と母には語っておりました。「バックスには目的があるのだから仕方ないよ」と私の母には話しておりました。これも昔話となりました。

ご母堂“敏子さま”には、お忙しい中をよくお酒をご馳走になりました。

お話の仕方、縁の下の仕事など、現在のあづみさんは全く生き写しとしご拝察いたしております。

ホームページは何時も拝見しております。

状況を刻々知ることができました。中澤さんからもアクセスすべしとのお達しでしたが、お忙しい中を邪魔してはと自己判断しておりました。

ご多忙中資料の編集、投稿への回答など大変なことでしょう。

また「ナイロンザイル事件その後」の出版など神経が磨り減るような状況ではとお察ししております。くれぐれもご留意の上、お仕事を勤めて頂きたく存じます。

まことに僭越ではありますが、ご祖母様、ご母堂様、バックスのご供養と思い、心経をお供えさせて頂ければ幸いと存じます。

写経の同行会での五年間ですが、一向に思うようには筆が進みません。現在の自分と考えると、日々過せることに感謝しております。

お仕事、ご多用でしょうが、どうかご自愛のほどをお祈り申し上げます。

敬具

石岡 あづみ様

平成 18 年 10 月 10 日

岩佐 弘

—岩佐さんから頂いた写経の複写です—

